

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州\_2014(v2.0)

## 1 建物概要

建物名称	リヴィエール光貞台レ・ルーチェ新築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	---------------------	-----	---	--------	----	-----

## 2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.2 /5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.5 /5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	1.6 /5		がんばろう
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------------	-----------------	-------------------

## 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)
<b>1 循環型社会への貢献</b>		スコア平均 3.2	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.3	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3 スコア 3.3
非構造材の一部にリサイクル材を使用		階高を3.16m以上とする	
<b>2 地球温暖化対策の推進</b>		スコア平均 3.5	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 4
断熱等性能等級4相当		節水型便器の採用	
<b>3 豊かな自然環境の確保</b>		スコア平均 1.7	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2 スコア 2
特になし		特になし	
<b>4 高齢社会への対応</b>		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	主な指標	
特になし		建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級	等級4
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEI値、住宅: -	-
		外構緑化指数	1.81 %
		建物緑化指数	0 %

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	リヴィエール光貞台レ・ルーチェ 新築工事	階数	地上14F
建設地	福岡県北九州市八幡西区光貞台1丁目3-43	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、法22条地域	平均居住人員	164 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年8月 予定	評価の実施日	2020年10月25日
敷地面積	1,750 m <sup>2</sup>	作成者	前畑 巨紀
建築面積	394 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	3,765 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.2

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合	全41戸の共同住宅において、周辺の街並みに配慮した環境形成と、子育て世代の居住に対応した防犯、住戸計画を行った。	その他
Q1 室内環境	内装の仕上げ材にF☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に使用。	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー	断熱等性能等級における等級4相当。	LR3 敷地外環境
Q2 サービス性能	住戸の天井高さを2.7m確保、また階高を3.16m以上とする。	高効率給湯器(エコジョーズ)の採用。
LR2 資源・マテリアル	節水型便器の採用、非構造材の一部にリサイクル材を使用。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■ LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**リヴィエール光貞台レ・ルー・チェ 新築工事**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
		<b>Q 建築物の環境品質</b>				
<b>Q1 室内環境</b>			0.40	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1 開口部遮音性能		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.7</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	1.00	
1 室温		3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能	断熱等性能等級4相当	3.0	0.38	<b>4.0</b>	1.00	
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.7</b>	0.25	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.9</b>
3.1 昼光利用		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50	
1 昼光率		-	-	3.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		<b>2.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50	
1 グレア制御		2.0	1.00	<b>3.0</b>	1.00	
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	-	-	
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>4 空気環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.5</b>
4.1 発生源対策		<b>3.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材を内部仕上げのほぼ全面的に採用(A-07)	3.0	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38	
1 換気量		-	-	3.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	1.00	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.4</b>	1.00	<b>3.3</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		<b>3.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観	住戸の天井高2.7m以上確保(A-16)	3.0	-	<b>5.0</b>	0.50	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.9</b>	0.30	-	-	<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		<b>2.6</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.4</b>	1.00	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			-	-	<b>3.8</b>	0.50	
1	階高のゆとり	階高3.16m以上とする(A-16)	3.0	-	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.2</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.1</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			断熱等性能等級4相当	4.0	0.20	-	4.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>				3.0	0.10	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>			[BEI][BEIm] = 1.00	3.0	0.50	-	3.0
<b>4 効率的運用</b>				3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価				3.0	1.00	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 水資源保護</b>			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			節水型便器の採用	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			集成材、フローリング、パネティックボード(A-07)	5.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	0.20	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			壁紙の接着剤に有害物質を含まないものを採用(A-07)	4.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			3.0	0.33	-	-	3.0
<b>2 地域環境への配慮</b>			2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.6	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	污水处理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	